

『育てよう一人一人の安全マインド，地域とともに』

——不審者侵入を想定した避難訓練の実践——

阿南市立新野小学校 校長 四宮 澄夫
〒779-1510 徳島県阿南市新野町南宮ノ久保70-1 Tel (0884)36-2021

I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模

児童数171名、学級数7学級、教職員16名

2 学校環境

新野町は阿南市の南西部に位置し、西端は那賀町に接する。地形は、桑野川の流れて南西に山を背負い、北東に開けた河岸段丘的な形状を成している。農業が産業の中心であり、ハウス園芸、花卉栽培、米作、畜産と多岐にわたり、町内には田畑が広がっている。人口が4,390人（平成17年3月31日現在）の郊外地域である。

校区は大変広く、通学距離が4 Km以上の児童も少なくないが、「あんぜんの家」が23軒あり、登下校の安全確保の拠点となっている。一方、近年の車社会化に伴い道路環境は整備されてきたが、集落間においては街灯などが十分でなく、防犯上の注意を要する箇所もある。

II 取組のポイント

平成16年度、文部科学省より「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の研究指定を受け、標題の主題の下、実践に取り組んだ。ポイントは次のとおりである。

1 校内研修

学校安全マニュアルの作成とその活用を中心に、教職員の危機管理能力の向上を図る。

2 安全教育

児童・保護者・教職員を対象に各種訓練、安全教室、講習会等を実施する。

3 授業実践

安全の視点からとらえた児童の生活実態にある課題解決にせまる授業を展開する。

4 地域との連携

「開いて守る」ため、人のつながりを強めていく。

5 安全対策

学校内外における、防犯を中心とした安全対策を推進する。

6 安全啓発

地域ぐるみで安全意識を高める発信活動を行う。

III 取組の概要

今回は、「不審者侵入を想定した避難訓練」に焦点を当て、その取組の概要について紹介する。

1 訓練計画

不審者侵入を想定した避難訓練実施計画

1 目的

- ・ 不審者の侵入に対し、自他の生命・安全を守るため、冷静に迅速に避難できる態度や能力を育てる。
- ・ 職員が児童の生命・安全を守るための行動を協力して確実に遂行できるようにする。

2 日時

平成17年2月3日（木） 5校時

3 日程

14:00 不審者侵入
14:03 校内放送
14:10 児童避難完了
警察到着、不審者対応
14:15 校長先生・警察の方のお話
14:25 終了予定

4 想定

- 授業中
- 刃物を所持した不審者（男性1名）が2年生の教室ベランダ出入り口より侵入。
- 児童は運動場に避難。

5 事前指導

- 訓練ではあるが、自分や友だちの命を守るため、真剣に取り組む。
- 不審者が侵入した場合の校内放送による連絡方法の理解。
「ニョッキー○年(侵入場所)、○○(避難場所)」
- 放送は無言で最後まで聞き担任の指示を待つ。
- 静かに安全に避難場所へ避難する（不審者を刺激しない）。
避難の約束「㊦さない・㊧けださない・
㊨やべらない・㊩どらない」
- 避難場所では静かに待つ。

6 訓練内容

時間	設定場面と職員の対応
14:00	<p>① 刃物を所持した不審者（男性1名）が、北校舎1階ベランダに姿を現し、後方の窓から2年生の教室をのぞき込む。</p> <p>② 気づいた担任は不審者と判断し、児童を廊下側前入り口付近に集める。同時にインターホンで職員室に連絡。 「2年のベランダに刃物を持った男がうろついています。」</p> <p>③ 不審者は、後方窓から侵入してきたので、担任は児童を運動場に避難するように指示。1年生に連絡。 1年生担任は、ベランダ出入り口から児童を運動場に避難させる。</p>
14:02	<p>④ 職員室で連絡を受けた職員は、緊急通報内容を校長・教頭に伝える。</p> <p>⑤ 校長は、110番通報と教育委員会への緊急連絡、校内放送を職員室職員に指示。</p> <p>⑥ 教頭と職員室にいる男性職員は道具を持って、現場に急行する。</p>
14:03	<p>⑦ 職員は110番通報。その後、教育委員会へ連絡。 「訓練です。訓練です。新野小学校です。今刃物を持った男が校内に侵入しました。大至急来てください。」 ※ 公民館にも応援要請</p> <p>⑧ 職員室職員は、校内放送で全校に不審者侵入を知らせる。 「ニョッキー、2年、運動場」(3回)</p>
14:05	<p>⑨各担任は、児童を落ち着かせ、避難経路と避難場所を指示して避難させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3～6年生担任は、児童を避難誘導して、非常階段より、北校舎北側を通過して運動場に避難、学年別に整列させ、人数を確認して待機させる。 ・ 1、2年生担任は運動場に避難した児童を学年別に整列させ、人数・けが人の有無を確認して待機させる。 ・ 複数で授業を行っている場合は、男性教員は道具を持って現場へ急行する。 ・ 養護教諭は、救急箱と携帯電話を持ち、運動場で待機。 けが人がいる場合はその対応にあたり、職員室に連絡。 ・ 職員室には必ず1名が残り、情報の把握と連絡を行う。

	<p>⑩ 現場では不審者が運動場に行かないように、北校舎出入り口・非常口方向をふさぐような形で対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教頭は、接近しながら刃物を捨てるよう、また、校内から退去するように説得をする。 ・ 他の職員は、膠着状態を維持しながら警察の到着を待つ。
14:10	<p>⑪ 警察が到着。不審者を取り押さえる。</p> <p>⑫ 教頭は不審者逮捕を職員室に連絡。</p> <p>⑬ 職員室職員は、教育委員会に不審者逮捕を連絡。 同時に校内放送にて不審者逮捕を知らせる。 「連絡します。ただいま不審者を警察が逮捕し、安全になりました。校長先生からお話がありますので、そのまま静かに待っててください。」</p> <p>⑭ 校長は運動場へ。 各担任は再度人数等を確認し、校長に報告する。</p>
14:15	<p>⑮ 校長先生のお話</p> <p>⑯ 警察の方のお話</p>

7 役割分担

- ・ 本部・・・校長、(事務長)
- ・ 校内放送・・・事務長
- ・ 110番通報・・・学校用務員
- ・ 救護・・・養護教諭
- ・ 不審者対応・・・教頭、空き教諭、(校長)
- ・ 避難誘導・・・各担任、授業担当者
- ・ 不審者・・・公民館職員
- ・ 写真記録・・・学習会専任指導員

8 事後指導

- 訓練であることを確認し、落ち着いて次の学習・活動に取り組めるよう配慮する。
- ふり返しカードに反省・感想等を記入する。
 - ・ 放送が静かに聞けたか。
 - ・ 内容は正確に理解できたか。
 - ・ 静かに安全な方法で避難できたか。
 - ・ 訓練の感想
- 様々な侵入場面(場所・時間・持っている凶器・人数など)を想定して、各自ができることを考えさせる。
 - ・ 防犯ブザーの場所・使い方
 - ・ インターホンでの連絡の仕方
 - ・ 隣の学級等への連絡(助けを求める場合も)

- ・ 大きな声を出す体験
- ・ 先生からの連絡を伝達する練習

9 その他

訓練終了後、上靴の裏をぞうきんでふいて教室に入る。(事前に靴箱にぞうきん準備)

2 訓練の実際

(写真番号は、1 訓練計画の6「内容」に準ずる)

① 不審者が教室をのぞき込む



③ 2年教室後方から侵入



← 2年生避難

1年生避難 →

⑩ 教職員による対応



←後部出入口から

前部出入口から ↓



「刃物を床に置きましょう。」と粘り強く声をかける。

⑪ 不審者を取り押さえる



←110番通報で駆けつけた警察官が、不審者を取り押さえる。

不審者をパトカーに拘束する。→



⑫ 警察の方の話



3 訓練実施後の警察官を囲んでの研修記録

(2005.2.3)

(1) 警察官講評

- 不審者への対応だが、2名が等間隔を取っていたのは大変よかった。
- 遠い近いがあると、近い人に向かってくる。
- できるだけ多くの人で対応するとよい。
- 不審者侵入か?と判断したら、とにかくすぐに110番連絡を行う。ミスであってもかまわない。
- いざその場面になれば不慣れなだけに舞い上がってしまうので、気づいた人が進んで電話する。
- まずは子どもの安全、次は自分の安全を心がける。
- 校内で見慣れぬ人を見かけたら、勇気をもって、素早く声かけを行う。
「何のご用ですか?」
反応に不審な点があれば、すぐ110番する。

(2) 警察官助言

- 110番について
- 110番は、県警本部につながるもので、住所・電話番号を必ず伝える。
「阿南市新野町の新野小学校です。」
最寄りの警察署、警ら中パトカーへ転送される。
「電話番号は、0000-00-0000です。」
電話番号ナビで場所が確定できる。
- 携帯電話からの110番は電波の伝わりやすい本部に入るが、どこへつながっても対応する。
- 不審者にかける言葉について
- 穏やかに話し、興奮させないように心がける。
- 刃物等凶器を持っていれば、手から離し、どこかに置くよう話しかける。
- 警察官が到着するまでの時間を稼ぐ。じっと留まらせても、敷地外へ出て行ってもよい(出ていった場合は、後に警察官が捜査する)。



→ 昼間では、阿南署から本校までパトカーが緊急走行しての所要時間は14~5分で、この時間は説得を繰り返す。

落ち着かすことが最優先であり、身柄確保が目的ではない。

引き取ってもらえたらベターである。

- 対応にあたって
- 道具(椅子など周りがある物でよい)を手に持ち対応する。
- さすまたは、押さえるにも、足をかけるにも、便利な道具である。
- パトカーは、現場近くになればサイレンを止める(興奮させない)。
- 侵入実態について
- 県内でも1件の事例がある。油断しないように。

(3) 教職員反省

- ・ 3階では、廊下で並ぶのを待つより、少しでも早く避難する。
- ・ 侵入現場(2年)では、子どもはすぐ避難した。隣の教室に伝えるより、子どもの動きが早い。
- ・ 不審者侵入コールを、みだらに人に教えない指導の必要性。コールを大切にすることを育てる。
- ・ 侵入者は、侵入箇所ですでに留まるのではない。対応要員はさまざまな経路で迫った方がよい。
- ・ けが人への対応だが、避難場所で救急車の到着を待つだけでなく、近隣の医療機関に協力を要請した方がいいのではないかと。連絡体制を見直し、整えていく。
- ・ 緊急放送がスピーカーの音量調整に関係なく流れるか確認。コールは、3回は必要である。

4 訓練から

避難訓練後、各教室で子どもたちに「ひなん訓練ふりかえりカード」を活用した自己評価を実施した。これは、訓練内容の評価をとおして再確認させると同時に、子ども一人一人が不審者侵入をどのようにとらえているのかをつかみ、事後の心理的なケアに役立てるためでもあった。集計結果は、次の一覧表のとおりである。



[集計一覧表]

※評価について A…よくできた B…まずまずできた C…あまりできなかった

設 問	学年 [参加数]	評価						
		1 [21] 回答数 (%)	2 [31] 回答数 (%)	3 [19] 回答数 (%)	4 [33] 回答数 (%)	5 [27] 回答数 (%)	6 [29] 回答数 (%)	計 [160] 回答数 (%)
放送を静かに聴けた	A	12 (57)	28 (90)	18 (95)	20 (63)	4 (15)	13 (50)	95 (61)
	B	5 (24)	3 (10)	1 (5)	12 (37)	16 (59)	10 (38)	47 (30)
	C	4 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (26)	3 (12)	14 (9)
「ニョッキー、2年、運動場」 (不審者侵入、侵入場所、避難先) のコールの意味がわかった	A	15 (71)	26 (84)	17 (90)	29 (88)	22 (81)	26 (90)	135 (84)
	B	1 (5)	4 (13)	2 (10)	3 (9)	4 (15)	3 (10)	17 (11)
	C	5 (24)	1 (3)	0 (0)	1 (3)	1 (4)	0 (0)	8 (5)
先生の指示が聞けた	A	16 (76)	26 (84)	17 (90)	25 (76)	6 (22)	15 (52)	105 (66)
	B	2 (10)	5 (16)	2 (10)	8 (24)	19 (70)	13 (45)	49 (30)
	C	3 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (8)	1 (3)	6 (4)
に 押さない	A	17 (81)	29 (94)	17 (90)	27 (82)	21 (77)	22 (76)	133 (83)
	B	3 (14)	2 (6)	2 (10)	4 (12)	4 (15)	6 (21)	21 (13)
	C	1 (5)	0 (0)	0 (0)	2 (6)	2 (8)	1 (3)	6 (4)
る 走らない	A	13 (62)	20 (64)	16 (85)	17 (52)	9 (33)	12 (41)	87 (54)
	B	3 (14)	8 (26)	2 (10)	12 (36)	6 (22)	15 (52)	46 (29)
	C	5 (24)	3 (10)	1 (5)	4 (12)	12 (45)	2 (7)	27 (17)
き しゃべらない	A	12 (57)	22 (71)	13 (68)	13 (40)	4 (15)	11 (38)	75 (47)
	B	4 (19)	8 (26)	5 (26)	12 (36)	10 (37)	13 (45)	52 (32)
	C	5 (24)	1 (3)	1 (5)	8 (24)	13 (48)	5 (17)	33 (21)
運動場で静かに待てた	A	7 (33)	18 (58)	16 (85)	13 (40)	5 (19)	17 (59)	76 (47)
	B	9 (43)	10 (32)	3 (15)	11 (33)	13 (48)	8 (27)	54 (34)
	C	5 (24)	3 (10)	0 (0)	9 (27)	9 (33)	4 (14)	30 (19)

(注…設問によっては無回答もあり、回答数が参加数と一致しない箇所もある)

[子どもたちの感想]

◆1年：

「こわかった」「ドキドキした」「びっくりした」
..... 9名 (43%)

「けいさつのひとがきてくれてよかった」
「つかまってあんしんした」
..... 5名 (24%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

びっくりしました。ほん
ものとおもいました。

◆2年：

「こわかった」「ドキドキした」
..... 8名 (26%)

「もしものときどうしたらいいかわかった」
「べんきょうになった」
..... 15名 (48%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

とつてもドキドキしました。でも
もしものときどうしたらいいか
わかりました。

◆3年：

「ほうそうがきた時がきんちょうした」
「ほんとうのこわさがわかった」
..... 3名 (16%)

「やってよかった」「どうすればいいかわかった」
..... 12名 (63%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

ほうそうがきた時がすごくきんちょうしました。ひなくん糸東はすごいことだなと思った。

◆4年:

「ふしん者の訓練はあまりしていないのできんちょうした」

..... 3名 (9%)

「けいさつの人のお話がよくわかりました」

..... 5名 (15%)

「ふだんから放送をきちんとききたい」

「けいけんがひつよう」

..... 8名 (24%)

「本当にふしん者がきたら、ひなん訓練のように放送をすずかにきけたらいいなと思った。かいだんも走らないようにしたい」

..... 21名 (61%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

ぜったいに来ふしとはかきりまふいので本当に来た時はこの言川糸東がやるとちつと思いき。

◆5年:

「初めてやってあわてていたりしたときもあったけど、ちゃんと学べてよかった」

..... 1名 (4%)

「“しゃべらない”をもっとがんばりたい」

..... 14名 (52%)

「不しん者が来たときのために、やってよかった」

..... 8名 (30%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

もし、ふしん者がきた時のために今日のマとおぼえておきたい

◆6年:

「いつもとちがったひなん訓練だったから少しきんちょうした」

..... 1名 (3%)

「今日の訓練は2年生だったけど他の学年もやらないと意味がない」

..... 1名 (3%)

「“ニョッキー△年、○○”はいい考えだと思う」

「忘れないようにする」

..... 3名 (10%)

「今日のことをよく考えて、本当に不審者が来たときにちゃんと避難できるようにしたい」

..... 19名 (66%)

☆ 今日のひなん訓練の感想を書きましょう

今日はおちついていなくてきたけど、本当にふしん者が来たらパニックになると思うから今日は、川糸馬金になった。

【考察】

今回の訓練は、本校の子ども・教職員にとって、初めての不審者侵入を想定した避難訓練であった。その点からも、子どもたちの自己評価にもある「不審者侵入、侵入場所、避難先」を知らせるコールについての学びの達成度が95% (A+B)であったことが何よりの成果である。また、これまでの避難訓練における「教師の指示をよく聞く」「避難時に押さない」等の学びが、生きた力となっていることもわかる。さらに感想にあるように、訓練の意義を実感できたり、訓練を訓練で終わらせず実際に起こったときにどう役立てようかと考えたりと、現実性のある学びととらえる傾向が強い。これは、このような事件がいつ・どこで発生しても不思議ではない社会情勢や子ども自身の生活認識の表れであろう。反面、「放送があれば静かに聞く」や「集まったら静かに待つ」といった態度の不十分さについては、日ごろの生活において育てられる点からも反省すべきである。危機回避能力は特別な力ではなく、一般的な集団生活力を場面に応じて適切に活用する力なのである。

不審者侵入という事実が、例え訓練とわかっていても子どもたちの心に少なからずの衝撃を与えることは感想からも明らかであり、それは下の学年ほど顕著である。警察官の姿や逮捕を知らせる放送は子どもに安心感を与えているし、訓練後の適切な支援も重要である。

教職員にとっては、「子どもを守る」教師の使命が再確認できたとともに、無理をせず警察と連携して不審者に対応すればいいことを学ぶことができ、有効な訓練になったといえる。

IV まとめ

今後も定期的に訓練を重ねていきたい。